

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
国際経済学				小井川 広志	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	3年次	講義	無	無
授業の概要 (Course Description)					
<p>本講義では、まず、国際経済の歴史を概観する。自由貿易黄金期(パックス・ブリタニカ)からIMF・GATT体制、ニクソンショック、日米摩擦、プラザ合意、近年の中国経済の台頭、そしてリーマンショック後の現代までを解説する。次に、国際間の商品取引を分析対象とする国際貿易の理論を説明する。ここでは、国際分業を規定する諸要因やその経済厚生の意義に触れていく。これを受けて、関税や補助金などの形で特定産業を保護するために実施される貿易政策や、近年話題となっているFTA、TPPなどの経済統合の経済的含意も検討していく。後半では、為替レートおよび企業の国際化の問題を取り上げ、理論的・実証的に解説していく。国際経済に関する全般的な知識と理論、ならびに歴史と現状を一通り学習することができる講義の構成となっている。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>日本企業のグローバル化、新興国の台頭、円高・円安など、国際経済は私たちの日常生活と深くかかわっている。卒業後、経済学の知識を糧に社会で活躍する一人として、さらには良識ある一市民として、私たちはこれら国際的な問題に精通しておかなければならない。本講義では、国際経済の理論と現実を体系的に解説していき、国際経済問題を正しく理解・展望していくための基礎知識と考え方を習得することを目的としている。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	序章 国際経済学の課題と対象				
第 2 回	国際経済の歴史 (1) 国際経済の誕生からパックスブリタニカへ				
第 3 回	国際経済の歴史 (2) 戦前期・戦間期の国際経済				
第 4 回	国際経済の歴史 (3) IMF-GATT体制 (パックスアメリカーナ) の成立と動揺				
第 5 回	国際経済の歴史 (4) 冷戦後の国際経済体制				
第 6 回	国際貿易の理論 (1) 比較生産費説				
第 7 回	国際貿易の理論 (2) ヘクシャー・オリーン理論				
第 8 回	国際貿易の理論 (3) 規模の経済と不完全競争				
第 9 回	貿易政策の理論と実証: 保護貿易の効果と社会的費用				
第 10 回	経済統合: FTA、EPA、TPPの政治経済学				
第 11 回	外国為替の理論 (1) 国際収支表と外国為替取引の実際				
第 12 回	外国為替の理論 (2) 為替レート決定の理論				
第 13 回	外国為替の理論 (3) 円高・円安と日本経済				
第 14 回	企業グローバル化の理論: 日本企業国際化の現状と課題				
第 15 回	終章 世界経済の中の日本経済: 課題と展望				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>授業中のミニテストにおいて、前週の内容を確認する問題が出題されることがあるので、復習が必要となる場合がある(その時は告知する)。また、学期の中間に、レポート課題を課す。これは、国際経済に関する新書の中から1冊を選び、まとめ、議論するものである。最終レポートと同じウェイトで評価されるので、この時間外学習にも注力すること。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
授業中のミニテスト (50%) 中間レポート (25%) 最終レポート (25%) (最終テストは行わない。 レポート等で評価する。)	←講義内容の復習を兼ねて、毎回の授業の最後に行う ←講義期間の中間時点で、レポート課題を課す ←講義期間の最後に、講義全般の内容に関するレポート課題を課す 上記3項目の合計点で60点以上を合格とする。最終テストは行わない。なお、授業中に積極的に発言や質問をした学生には、ボーナス点が付与される。
テキスト (Textbook)	【書名】 どうなる世界経済 入門国際経済学 【著者】 伊藤元重 【出版社】 光文社新書 【出版年】 2016
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	特に指定しない。講義で用いるプリント、新聞・雑誌記事などは、講義中に配布する。ただし、配布は当日のみで翌週以降は持参しない(プリントの種類が多く管理不可能なため)。欠席した学生は、友達からコピーさせてもらうなど、自己責任で確保すること。
備考 (Other Information)	講義は、その日の講義テーマに関する動画を視聴し、それをまとめたPowerPointを利用してハイスピードで進めていく。そのため受講者は、講義に集中し、講義のスピードに遅れないように留意すること。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	講義内容などに関して連絡がある場合には、以下のメールアドレス oimichael<at>cantab.net まで連絡のこと(送信の際には上記<at>を @ に置き換えること)